

《課題名》

眼内レンズ強膜内固定における眼内レンズ度数選択の検討

《研究対象者》

2005年4月1日から2022年3月31日の期間内に、無水晶体眼、水晶体脱臼・亜脱臼眼、眼内レンズ脱臼・亜脱臼眼等に対して眼内レンズ強膜内固定または眼内レンズ縫着術を行った方

研究協力をお願い

滋賀医科大学において上記課題名の研究を行います。この研究は、対象となる方の滋賀医大で既に保有している臨床情報（及び生体試料）を調査する研究であり、研究目的や研究方法は以下の通りです。情報等の使用について、直接に説明して同意はいただきず、このお知らせをもって公開いたします。対象となる方におかれましては、研究の主旨・方法をご理解いただきますようお願い申し上げます。

この研究への参加（試料・情報提供）を希望されない場合、あるいは、研究に関するご質問は下記の問い合わせ先へご連絡ください。

（1）研究の概要について

研究課題名：眼内レンズ強膜内固定における眼内レンズ度数選択の検討

研究期間：倫理審査委員会承認日（2017年12月11日）～2023年3月31日まで

研究機関・実施責任者：滋賀医科大学 《所属》眼科学講座 《氏名》柿木雅志

（2）研究の意義、目的について

《研究の意義、目的》

白内障手術における眼内レンズは通常、水晶体嚢内に固定されます。何らかの理由により水晶体嚢を持たない無水晶体眼に対する眼内レンズ挿入の術式には、一般に眼外から強膜に通糸したナイロン糸を用いて眼内レンズ支持部を縫着する眼内レンズ縫着術と、眼内レンズ支持部を強膜内へ埋没させる眼内レンズ強膜内固定術の2通りの方法があります。

挿入すべき眼内レンズの度数については術前検査の結果に基づき、予測式を用いて水晶体嚢内に固定されたものとして算出され、眼内レンズ縫着術では、水晶体嚢内に固定した場合と比べ眼内レンズがやや眼球前方に固定されるため、眼内レンズの度数をわずかに減弱すべきとされています。

近年、眼内レンズ縫着術に比して眼内レンズの傾斜による乱視の発生や虹彩捕獲、縫合糸の経年劣化による眼内レンズの位置異常といった合併症のリスクが少ないことから、眼内レンズ支持部を強膜内に固定する眼内レンズ強膜内固定術が次第に普及してきています。

そこで当院では眼内レンズ強膜内固定術または縫着術を施行した患者さんにおいて、両術式を比較し手術成績を検討します。

（3）研究の方法について

《研究の方法》

滋賀医科大学附属病院眼科において、眼内レンズ強膜内固定術または眼内レンズ縫着術を施行された患者様の診療情報から、データを抽出します。個々のデータは個人が特定出来ない様割り付けし、暗号化しUSBに保存します。これらデータを用い、外部ネットワークに繋がっていないコンピュータ端末上で解析を行い、より高い精度で術後屈折値を得るための眼内レンズ度数選択について後ろ向きに検討します。

なお、当科は本研究で用いた眼内レンズメーカーである、日本アルコン株式会社より、寄附金の提供を

受けていますが、このことが本研究結果に影響を及ぼすことはありません。

(4) 個人情報の取扱いについて

《個人情報の取扱いに関する記載》

研究にあたっては、個人を容易に同定できる情報は削除したり関わりのない記述等に置き換えたりして使用します。また、研究を学会や論文などで発表する時にも、個人を特定できないようにして公表します。

(5) 研究成果の公表について

この研究成果は学会発表、学術雑誌などで公表します。

(6) 研究計画書等の入手又は閲覧

本研究の対象となる方は、希望される場合には、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で本研究に関する研究計画書等の資料を入手・閲覧することができます。

(7) 利用又は提供の停止

研究対象者又はその代理人の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用を停止することができます。停止を求められる場合には、2022年12月31日までに下記(8)にご連絡ください。

(8) 問い合わせ等の連絡先

滋賀医科大学 眼科学講座 柿木雅志

住所：520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町

電話番号：077-548-2276

メールアドレス：l-eye@belle.shiga-med.ac.jp